

地質調査所研究資料集

この資料集は、地質調査所資料室(電話(0298)54-3605)で閲覧できます。

地質調査所海外研究資料集 No.46

高橋 清ほか(1990)

第2回浅熱水性金鉱化作用ワークショップ バンドン1990年9月の記録. 187p.

内容紹介

1990年バンドンで実施された第2回浅熱水性金鉱化作用ワークショップの前年に提出された論文の収録。リソースパーソンの講演原稿は5件、70ページからなる(目次1を参照)。これによって1990年代のカーリン型と鉱脈型金鉱床の探査戦略や探査手法がわかる。各国の代表が報告するカントリーレポートは8件、90p.におよぶ。これによりフィジー、インド、韓国、ラオス、ミャンマー(旧ビルマ)、ソロモン諸島、タイ、ベトナム(abc順)の8ヶ国の金鉱床探査情況がわかる。中国とフィリピンは予定されたが、報告されなかった。

地質調査所海外研究資料集 No.47

富樫幸雄(1990)

第2回ESCAP浅熱水性金鉱床ワークショップ論文集(インドネシア、バンドン及び東カリマンタン). 208p.

内容紹介

ESCAP天然資源部鉱物資源課はESCAP域内発展途上国の経済的成長に寄与するため、目下浅熱水性金鉱床の探査技術の移転を主目的としたワークショップを開催している。その第1回は1989年に我が国のつくば市で開催され好評を博した。さらに、第2回は表記のように、本年9月にインドネシア、バンドンで会議が行われ、続いて、東カリマンタン(Keliam金鉱床)への巡検が行われた。本資料集はバンドンでの会議において配布された技術論文および事務局側ペーパーを収集したものである。技術論文については、先進国(日本、アメリカ)およびESCAPからの4つのトピック論文と、発展途上国9ヶ国(タイ、インド、フィジー、ミャンマー、インドネシア、韓国、ベトナム、ラオス、ソロモン諸島)からのカントリーレポート11篇が含まれている。これらにより、アメリカ西部、日本、西南太平洋地域など、環太平洋新規変動帯における浅熱性金鉱化作用の概要と探査の現状を知ることが出来る。

地質調査所研究資料集 No.155

須田芳朗・村田泰章・菊地恒夫・花岡尚之(1991)

岩石物性値データベース(PROCK). 231p., 218tab.

内容紹介

PROCKは、物理探査の解析に必要な岩石物性値のファイルである。想定している物理探査の種類は、重力探査、地温探査、磁気探査、および弾性波探査(P波、S波)である。このデータベースの開発は、RIPS研究情報基盤の拡充強化に係わる研究開発計画のうち、データベースマネジメントシステム等の開発(大項目)のなかで、岩石物性値・分析値データベースマネジメントシステム(中項目)として実施したものである(昭和60年度-昭和62年度)。ただし分析値については、地質調査所における他の研究課題で開発されたので、このファイルには岩石物性値だけを含んでいる。なお、数値化作業は、科技厅の重点基礎研究(昭和60年度)として実施した。本資料集は、PROCKに採録された全データを表形式で示したものである。このデータを用いて、ヒストグラムや相関図等を作成したものは、本資料集とは別に、地質調査所報告第276号としてまとめた。本資料集に添付したフロッピーディスクには、PROCKの全データが入力されており、研究を目的とする場合に限り利用することができる。

地質調査所研究資料集 No.156

松江千佐世(1991)

地質標本館登録標本リスト：岩石(その1)登録番号順見出しリスト. 26p., 25tab.

内容紹介

本見出しリストでは、検索の便宜を図るために、図幅別または、地域別等、地学情報として有用な属性を主体としたロットごとの一括入力を中心として実施した。すなわち、本リストの内容としては、登録番号、表題(図幅名や地域名など)、採集者、ポ(ポイント・マップ)、ス(薄片)、文(文献)、備考(1/50000地形図名など)から成っている。表題については、作業の便宜上暫定的に定めたものもあり、特にまとまりのない部分については、一括して各種標本として表現してある。これまで地質標本館の登録標本の内容の詳細については、リストの形で公表する機会がなかったが、リストの形式等に関しては、なお試行の要素を残すものの、今回の発表によって、少なくとも標本利用者の便宜の面からは、必要な標本を効率的に検索する手段の一つを提供し得たものである。

地質調査所研究資料集 No.157

村尾 智・田中由身子(1991)

木浦鉱山教室に関する資料集. 60p., 5pl.

内容紹介

木浦鉱山教室は木浦中学校教師安藤 隆・森竹利博両氏(ともに故人)が昭和20年代後半に木浦鉱山の集落で始めた啓蒙活動である。活動は鉱山関係諸科学から民俗学まで広い範囲にわたったが、後に宇目町立郷土博物館として結実する。今回、地元の要請・協力を受けて活動史を調べ古い資料を種々入手したので研究資料集として保存する。

地質調査所研究資料集 No.158

小笠原正継(1991)

蛍光X線分析法によるガリウムの定量および地質調査所標準岩石試料中のガリウム. 15p., 6 fig., 2tab.

内容紹介

蛍光X線分析法によるガリウムの定量法についての検討を行い、地質調査所標準岩石試料のうち8個と花崗岩1個について分析を行った。得られたガリウムの値と推奨値との比較を行い、また試料中のガリウム量について岩石学的検討を加えた。分析にはフリプス社製PW1404を用い、管球にはMo管球を使用した。X線管球は90kV, 30mAの条件で用い、分光結晶はLIF200を用いた。バックグラウンド補正を行った後、マトリックス補正を行った。この結果、蛍光X線分析法により通常の岩石試料中のガリウムを精度良く分析できることが示された。また検出限界は今回約1ppmであったが、計測時間を長くすることにより、0.5ppmとすることが可能である。地質調査所の標準岩石試料のガリウムの分析結果について岩石学的検討を加えたが、苗木花崗岩のJG-2でガリウムがアルミニウムに比してやや高く、JG-2はA-type花崗岩的特徴を含むことを指摘した。